

[illegible]

2章
仮設工事

①足場その他

内部足場 種別 ☒きやつ、足場板等 ・移動式足場 [2.2.1]
外部足場 種別 ☒くさび緊結式（手すり先行工法） ・ [2.2.1]
防護シートによる養生 ・行わない ○行う
材料、撤去材等の運搬 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・E種 [2.2.1][表2.2.1]
既存部分の養生 ※ビニルシート、合板等 ・ [2.3.1]
固定家具等の移動 ※行わない ・行う（図示）

(a)設置箇所 ※図示 ・ [2.3.2][表2.3.1]

種別	下地	仕上材（厚さmm）	充てん材	塗装
・A種	※軽量鉄骨	・合板（※9.0 ・ ）		※無し
・B種	・木下地	※せっこうボード（※9.5 ・ ）	厚さ mm	・片面
・C種	単管下地	防災シート		
仮設扉	※木製扉	・合板張り程度		※無し
	・鋼製扉	・片面フラッシュ程度		・有り

・設ける 規模等は以下による ・既存施設の一部を使用する ※設けない [2.4.1]
（・規模 m程度 ・仕上げ：床 ・壁 ・天井 程度）

構内既存の施設 ※利用できる (○有償 ・無償) ・利用できない

構内既存の施設 ※利用できる (○有償 ・無償) ・利用できない

②養生その他

③仮設間仕切り

④監督職員事務所

⑤工事用水

⑥工事用電力

3章
防水改修工事

1既存下地の補修及び処置

※図示による [3.2.6]
既存露出防水層表面の仕上塗装の除去 ・する ・しない

[3.3.2～3][表3.1.1][表3.3.3～3.3.10]		
防水改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種類

アスファルトの種類 ※3種 ・ 押え金物 ※アルミニウム製（L-30x15x2.0程度）
脱気装置 ・製造所の指定する製品 ・ステンレス製 設置数量（ ）箇所
改修用ドレン ※設ける（ ）箇所※銅製 ・鉛製 ・設けない [3.2.5]
屋根保護防水断熱工法に用いる断熱材
材質 ※押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA（スキン層付き）
・A種押出法ポリスチレンフォーム保温材の保温板3種b（スキンあり）
厚さ（mm） ※35
屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材
材質 ・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号
※A種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号又は2号
厚さ（mm） ※35
乾式保護材 製造所の仕様による ・
防水保護のれんがの種類 ※市販品のレンガ又は市販品のレンガ形コンクリートブロック
仕上塗装（P2A、M3D、POD、PODI、M3DI、M4DI、工法） ※種類および使用量は製造所の仕様による
施工標識 ※設ける ・設けない

[表3.1.1][3.4.2～3][表3.4.1～3]

防水改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種類（厚さmm）	仕上げ塗料等

仕上げ塗料の使用量 ※製造所の仕様による ・
脱気装置 ・製造所の指定する製品 ・ステンレス製 設置数量（ ）箇所
露出防水絶縁断熱工法に用いる断熱材 ・製造所の指定する製品
・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号

施工標識 ※設ける ・設けない

[表3.1.1][3.5.2～3][表3.5.1～2]

防水改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種類（厚さmm）	仕上げ塗料等

仕上げ塗料の使用量 ※製造所の仕様による ・
絶縁用シートの材質 ※発泡ポリエチレンシート ・ [3.5.2]
脱気装置 ・製造所の指定する製品 ・ステンレス製 設置数量（ ）箇所
機械固定工法に用いる断熱材 ※次のいずれかによる ・
・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2種
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材の1種b、2種b又は3種b
・A種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号又は2号
・A種押出法ポリスチレンフォーム保温材の保温板
接着工法に用いる断熱材 ※次のいずれかによる ・
上記断熱材のほか ・ポリエチレンフォーム保温材 ・A種ポリエチレンフォーム保温材
改修用ドレン ※設ける（ ）箇所 ・設けない
※製造所の指定する製品 ・銅製 ・鉛製
施工標識 ※設ける ・設けない

2アスファルト防水

3改質アスファルトシート防水

4合成高分子系ルーフィングシート防水

4章
外壁改修工事

5塗膜防水

6保証期間

⑦シーリング

8と

9アルミニウム製笠木

1施工数量調査

②改修工法の種類

3ひび割れ部改修工法

[表3.1.1][3.6.2～3][表3.6.1]			
防水改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種類	仕上げ塗料等

仕上げ塗料の使用量 ※製造所の仕様による ・
既存塗膜防水層表面の仕上塗料の除去（L4X工法） ・除去する [3.2.6]
脱気装置（S4S工法及びS3S工法） ・設けない ・設ける
施工標識 ※設ける ・設けない

防水の保証期間は原則、10年とする。ただし、既存の劣化等の状況により保証ができない場合は、保証できない理由を明確にし、監督職員と協議を行うこと。

○シーリング充填工法 ・シーリング再充填工法 [3.1.4][表3.1.2]
・拡幅シーリング再充填工法 ・ブリッジ工法
シーリング材の種類、施工箇所 [3.7.2][表3.7.1]
※下表以外は、改修標仕表 3.7.1を標準とする

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
建具廻り	MS-2
水廻り	SR-1

シーリングの試験 ※行わない ・行う（※簡易接着性試験 ・引張接着性試験）

材質 ・配管用鋼管 ・硬質ポリ塩化ビニル管（VP） ○硬質ポリ塩化ビニル管（VP） [3.8.2(a)]
とい受け金物 ※SUS製 ・亜鉛メッキ製
ルーフトレン ※改修標仕表 3.8.2を標準とする ・図示による [3.8.2(b)][表3.8.2]
[3.9.2]
表面処理 ・A-1種 ※B-1種

[4.1.4～5]		
外壁の種類	種類	改修工法
・コンクリート	・ひび割れ部	※樹脂注入工法・Uカットシール材充填工法・シール工法
打放し仕上げ	・欠損部	※充填工法 ・
・モルタル塗り仕上げ	・ひび割れ部	※樹脂注入工法・Uカットシール材充填工法・シール工法
	・欠損部	・充填工法 ・モルタル塗替工法
	・浮き部	・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・
・タイル張り仕上げ	・ひび割れ部	・樹脂注入工法 ・Uカットシール材充填工法
	・欠損部	・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法
	・浮き部	・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
	・目地	・目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮目地改修工法

○塗り仕上げ
・薄付け仕上塗材塗り ○可とう形改修用仕上塗材塗り
・厚付け仕上塗材塗り ・各種塗料塗り
・複層仕上塗材塗り ・マステック塗材塗り

[4.1.4][4.3.4]				
樹脂注入工法（・モルタル面 ・躯体コンクリート面）	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（cc/m）	備考
注入工法の種類				
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※	
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※40 ・	
	0.3以上～0.5未満	※100～200	※70 ・	
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130 ・	

注入材料 [4.2.2]
※建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A 6024低粘度形又は中粘度形）
検査（コア抜き） ※行わない
・行う（抜き取り部の補修方法： ）
・Uカットシール材充填工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.5]
充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系シーリング材
・可とう性エポキシ樹脂
ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない
・シール工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.6]
シール材料 ・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂

4欠損部改修工法

5浮き部改修工法

6既存塗膜等の除去及び下地処理

⑦仕上げ塗り材仕上げ

8設計数量

※充填工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.7]
充填材料 ・ポリマーセメントモルタル（・モルタル面 ・コンクリート面 ・CB面）
・エポキシ樹脂モルタル（ ）
・モルタル塗替え工法（改修標仕4.2.2(g)による）

[4.1.4][4.4.10～4.4.15][表4.4.3][表4.4.4]

改修工法の種類 （モルタルを撤去しない場合）	アンカーピンの本数（本/m ² ）		注入口の箇所数（箇所/m ² ）		充てん量
	一般部	指定部	一般部	指定部	注入量
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・			※25ml
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25ml
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	・25ml ※50ml
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・			※25ml
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25ml
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50ml

※狭幅部におけるアンカーピン本数は、幅中央に5本/mとする
アンカーピン [4.2.2]
材質 ※ステンレス SUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの ・
注入口付アンカーピン [4.2.2]
材質 ※ステンレス SUS304、呼び径外径6mm

既存塗膜劣化部の除去及び下地処理の工法 [4.6.3][表4.6.1～4.6.5]

工法	処理範囲	下地面の補修
・サンダー工法	※既存仕上面全体 ・	・ひび割れ部改修工法
・高圧水洗工法	※既存仕上面全体 ・	・浮き部改修工法
・塗膜はく離削工法	※既存仕上面全体 ・	・欠損部改修工法
・水洗い工法	※上記処理範囲以外の既存仕上面全体 ・	

下地調整材 [4.2.2][4.6.3]
※下地調整塗材 ・ポリマーセメントモルタル ・防水形仕上げ塗材主材を使用

種類、仕上げの形状、工法 [4.1.4][4.2.2][表4.2.4～5]

種類	呼び名	仕上の形状
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材E ・可とう形外装薄塗材E ・防水形外装薄塗材E	・砂壁状 ・着色骨材砂壁状 ・砂壁状 ・ゆず肌状 ・ゆず肌状 ・凹凸状
○複層仕上塗材	・複層塗材CE ・可とう形複層塗材CE ・複層塗材E ・複層塗材RE ・防水形複層塗材CE ○防水形複層塗材E ・防水形複層塗材RS	・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸状上塗材 ・水系アクリル ・水系アクリルシリコン 外観 ※つやあり ・つやなし ・メタリック 防水形の増塗材 ・行う
○軒天用軽量骨材仕上塗材	○吹付用軽量塗材 ・こて塗用軽量塗材	○砂壁用 ・平坦状

[表4.2.4～5]				
外壁部位	種類	工法	数量	備考
・コンクリート打放し面	・ひび割れ	※Uカットシール材充填工法 ・	m	
	・欠損部	※エポキシ樹脂モルタル充填工法 ・	箇所	
・モルタル塗り仕上げ面	・ひび割れ	※Uカットシール材充填工法 ・自動式低圧球状樹脂注入工法	m m	
	・欠損部	※充填工法 ・	m	
	・浮き部	※アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・	m ²	

※上記数量については、現場調査を行い報告書を作成し、提出する。
尚、数量の10%を越える増減が生じた場合は協議の上、契約変更を行う事ができる。

特記事項
・
・
・
・
・

変更事項
・
・
・
・
・
日付

日付
・19.11.11
検閲
担当

名称
西柘植・壬生野小学校
新給食センター配送校給食室等改修工事（令和元年冬工事）
図名
共通
改修特記仕様書（2）

図番
縮尺
換印

図番
A-02

6章
内装改修工事

⑲ せっこうボード
その他ボード張り

[6.13.2][表6.13.1]			
種 類	JISの記号	厚さ (mm)、規格等	
・硬質木毛セメント板	HW	・15 ・20 ・25 ・	
・普通木毛セメント板	NW	・15 ・20 ・25 ・	
・けい酸カルシウム板	0.8FK	無石棉 ※6 ・8 ・	
・ロックウール化粧吸音板	DR	※フットタイプ (※9 (不燃) ・12 ・) ・凹凸タイプ (※12 (不燃) ・15 ・19 ・)	
○せっこうボード	GB-R	※12.5 (不燃) ・9.5 (準不燃)	
・不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5 (不燃) 化粧無 (下地張り用) 化粧有 (トラバーチ模様)	
・強化せっこうボード	GB-F	・12.5 (不燃) ・15.0 (不燃)	
・シーリング石こうボード	GB-S	・12.5 (不燃)	
・化粧せっこうボード	GB-D	・12.5 (不燃) ・9.5 (準不燃)	
・せっこうラスボード	GB-L	・9.5	
・メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903による 厚さ1.2	
・パーティクルボード			
・化粧けい酸カルシウム板	0.8FK	※6	
合板類、繊維板、パーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 ※適用する ・適用しない			

⑳ せっこうボードの
目地処理

目地処理の種類等 [6.13.3][表6.13.5]
○継目処理工法 施工場所 (塗装下地) ※ベベル目地処理
・突付け工法 施工場所 (天井 (化粧石膏ボード))
・目透し工法 施工場所 (素地仕上 (石膏ボード) 、天井 (ケイカル板))

21 壁紙張り

[6.14.3]			
施 工 箇 所	壁紙の種類	防火性能	備 考
保育室・乳児保育室	※AA級 ・	・不燃 ○準不燃 ・難燃	
上記以外の各室	※AA級	・不燃 ○準不燃 ・難燃	

モルタル及びプラスター面の下地調整 ・RA種 ※RB種 ・RC種 [表7.2.5]
石こうボード及びその他ボード面の下地調整 ・RA種 ※RB種 ・RC種 [表7.2.7]
ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種

22 磁器器質タイル張り

タイルの種類 (6.16.3)

施工箇所	形状寸法 (mm)	用途による区分	耐凍害性	色 調	うわぐすり	役 物
			無 有	標準 特注	無釉 施釉	無 有
テラス段鼻	60巾	・屋内 ○屋外 ・壁 ・床	※ ・	※ ・	○ ・	・ ・ ・
		・屋内 ・壁 ・屋外 ・床	※ ・	※ ・	・ ・	・ ・ ・
		・屋内 ・壁 ・屋外 ・床	※ ・	※ ・	・ ・	・ ・ ・

タイルの見本焼き ※行わない ・行う (※外装タイル ・)
内装タイル ※壁タイル接着剤張り ・改良積上げ張り [6.16.5][表6.16.5]

⑳ セルフレベリング

セルフレベリング材の種類 ・せっこう系 ※セメント系 [6.17.1][表6.17.1]
※厚み (10 mm程度)

24 断熱材

(標19.9.2)(標19.9.3)			
種 類	施工箇所	厚さ (mm)	品質等
・押出法 ポリスチレン フォーム 保温板	※2種b ・一般部	※25	※ノンフロンのもの ・特定フロンを使用しないもの
・現場発泡断熱材	・接地板	※25	
	※断熱材補修部分 ・一般部	※15	ノンフロンタイプ ・HFCタイプ 難燃性・3級 ・2級 ・難燃材料相当品

ロックウール、グラスウール、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材の
ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種

25 可動間仕切

(標20.2.3)			
構造形式	パネル部の総厚さ (mm)	表面材種 厚さ (mm)	表面仕上げ
※パネル式 ・スタッド式 ・スタッドパネル式		※鋼板 (※0.6 ・0.8) ・	※メラミン樹脂又は アクリル樹脂焼付け ・

遮音性 ・あり () ・なし

26 フリーアクセス
フロア

(標20.2.2)			
施 工 箇 所	仕上り高	耐震性能	耐荷重性能
			表面仕上げ材 ・帯電防止床タイル ・タイルカーペット

製造所

(標20.2.4)
パネル表面材 (・) 遮音性 (・)
パネル及び圧着装置の操作方法 (・)

(標20.2.5)
パネル表面材 (○高圧メラミン化粧版 ・)
脚 部 ※幅木タイプ ・脚金物タイプ

(標20.2.6)
材種 ※ステンレス製ビニルタイヤ入り ・
寸法 ※幅 35mm ・ 取付け工法 ※接着工法 ・埋込み工法

(標20.2.8)
黒板 (暗線入工場製品)
種類 ※ホーロー黒板 ・焼付け鋼製黒板 ○ホーロー白板 (暗線入り)

27 移動間仕切り

28 トイレブース

⑳ 階段滑り止め

30 黒板及び
ホワイトボード

31 ブラインド

・既存再使用する (養生方法) [2.3.1][5.1.6] ・新設する (標20.2.12)			
形 式	種 類	スラットの材種・幅 (mm)	施工箇所
※横型	※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金 ※25 ・	
・縦型	・1本操作コード ・2本操作コード	・アルミスラット ・80 ・クロススラット ・100	

32 カーテン

○既存再使用する (養生方法：撤去および復旧) [2.3.1][5.1.6]
○新設する (標20.2.14)

施工箇所	名称・品質	ひだの種類	形 式
便所 (1)、便所 (2)	シャワーカーテン ビニル製・はっ水加工品	○ひだなし ・片ひだ	○片引き ・引分け
各保育室、乳児保育室 (1才) 乳児室 (0才)、休憩室、ロッカー室	布地 仕上げ表による	・箱ひだ等 ○片ひだ	・片引き ○引分け

防災加工 消防庁認定の ㊟ とする
○カーテンレール ○アルミニウム製 ☒ステンレス製 ※C型又はD型
カーテンきれ地のはぎれ ※半幅未満は使用しない ・一幅未満は使用しない
暗幕用カーテンの召合せの重なりは、300mm以上とする

33 点検口

天井点検口 ※アルミニウム製 (※額縁タイプ ・目地タイプ)
床点検口 ※アルミニウム製 ・ 受け枠 (・)

34 流し台ユニット

7章
塗装改修工事

① 材料一般

・屋内の壁及び天井の塗装仕上げは、防火材料とする。
・次の箇所を除き防火材料とする。()
建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒドの放散量 [7.1.3]
※規制対象外 ・第三種

RB種の場合の既存塗膜の除去範囲 [7.2.1]
下地調整 [表7.2.1～表7.2.7]

下地面の種類	下地調整の種類	備 考
木部	・RA種 ※RB種 ・RC種	新規はRA種 (不透明塗り)
鉄鋼面	・RA種 ※RB種 ・RC種	新規はRA種
亜鉛めっき面	・RA種 ※RB種 ・RC種	新規鋼製建具はRC種 新規鋼製建具以外はRA種
モルタル、プラスター面	・RA種 ※RB種 ・RC種	
コンクリート及びALCパネル面	・RA種 ※RB種 ・RC種	新規はRA種
せっこうボード、その他ボード面	・RA種 ※RB種 ・RC種	新規せっこうボードで目地 処理 (継目処理) 工法はRA種

既存モルタル下地面等のひび割れ部の補修 [表7.2.4～表7.2.6]
・行わない ・行う (補修範囲及び補修方法は図示)

② 下地調整

3 錆止め塗料塗り

4 合成樹脂調合
ペイント塗り (SOP)

5 フタル酸樹脂
エナメル塗り (FE)

6 アクリル樹脂系非水
分散形塗料 (NAD)

7 耐候性塗料塗り (DP)

⑤ つや有合成樹脂
エマルション
ペイント塗り (EP-G)

9 合成樹脂エマルシ
ンペイント塗り (EP)

10 合成樹脂エマルション
塗料塗り (EP-T)

11 ウレタン樹脂
ワニス塗り (UC)

12 木材保護塗料塗り
(WP)

塗料種別 [表7.3.1]
屋外 (※A種 () ・B種) 屋内 (※A種 ・B種 ・C種)
鉄鋼面EP-Gの場合 (・A種 ※B種)
塗り工法 [表7.3.3][表7.3.4]
鉄鋼面塗り替えの場合の種類 ・A種 ・B種 ※C種
亜鉛めっき面の塗りの種類 ・A種 ・B種 ※C種
亜鉛めっき面EP-G塗り替えの場合の種類 ・A種 ・B種 ※C種
新規鉄鋼面、亜鉛めっき面の塗りの種類 ※標仕18.3.3による

塗り工法 [7.4.1～7.4.5][表7.4.1][表7.4.2][表7.4.3]

下地の種類	塗料種類	塗り工法
木部	※1種 ・2種	新規 (屋外 ※A種 ・B種 屋内 ※A種○B種) 塗替え (※B種 ・)
鉄鋼面	※1種 ・2種	・A種 ※B種 ・C種
亜鉛めっき面	※1種 ・2種	※改修標仕7.4.3よる ・

木部 種類 (・A種 ※B種 ・C種) [7.6.2][表7.6.1]
鉄鋼面、亜鉛めっき面 種類 (・A種 ※B種 ・C種) [7.6.3][表7.6.2]

塗替えの場合の下地調整 ・RA種 ※RB種 ・RC種 [7.2.5][7.2.6]
塗り工法の種類 ・A種 ※B種 [7.7.2][表7.7.1]

塗替えの場合の下地調整 ・RA種 ※RB種 ・RC種 [7.2.2][表7.2.1] ～ [7.2.7][表7.2.7]
○鉄鋼面 工法は、表7.8.1 種別は新規はA種、塗替はB種 (7.8.2)(表7.8.1)
・亜鉛めっき面 工法は、表7.8.2 種別は新規はA種、塗替はB種 (7.8.3)(表7.8.2)
上塗種別
・ JISK5659 (1級) ふっ素系樹脂塗料
・ JISK5659 (2級) シリコン系樹脂塗料
○ JISK5659 (3級) ポリウレタン系樹脂塗料
○コンクリート面、押出成型セメント板面
工法は、表7.8.3 種別は (・A-1種 ・A-2種 ・B-1種 ・B-2 ○C-1種 ・C-2種)
(7.8.4)(表7.8.3)
上塗種別
・ JISK5658 主要原料 ふっ素樹脂 (1級)
・ JISK5658 主要原料 シリコーン樹脂 (2級)
○ JISK5658 主要原料 ポリウレタン樹脂 (3級)

[7.9.2～7.9.5][表7.9.1～表7.9.4]

下地の種類	塗り工法
コンクリート、モルタル、プラスター、その他ボード面	新規 (・A種 ○B種) 塗替え (※B種 ・)
木部	新規 (※A種 ・) 塗替え (※B種 ・)
鉄鋼面	新規 (・A種 ・B種) 塗替え (※B種 ・)
亜鉛めっき鋼面	新規 (・A種 ・B種) 塗替え (※B種 ・)

塗替えの場合のシーラー ※改修標仕 7.9.2による ・行わない

塗り工法の種類 ・A種 ※B種 ・C種 [7.10.2][表7.10.1]

新規の塗りの種類 ・A種 ※B種 [7.11.2][表7.11.1]
塗替えの場合

既存塗膜	下地調整	種 別
合成樹脂エマルション模様塗り	※RB種 ・RC種	※A種 ※C種
平滑な塗料塗り	※RB種 ・RC種	・A種 ・B種 ・C-1種 ・C-2種

塗り工法の種類 ・A種 ※B種 [7.12.2][表7.12.1]
塗料の種類 ※1液形 ・2液形

工法 ・A種 ※B種 [7.15.2][表7.15.1]

特記事項
・
・
・
・
・

変更事項
・
・
・
・
・
日付

日付
・19.11.11
検図
国名
共通
改修特記仕様書 (4)

名称
西柘植・壬生野小学校
新給食センター配送校給食室等改修工事 (令和元年冬工事)
図面番号
A-04
縮尺
検印

新給食センター配送校給食室等改修工事（令和元年冬工事）解体工事特記仕様書

総則

工事概要

1. 共通仕様

（1）図面及び特記仕様に記載されてない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築物解体工事共通仕様書・同解説（平成24年版）」（以下「解体共通仕様書」という。）による。

2. 特記仕様

新営特記仕様書による

章項目特記事項

1章一般共通事項

2章仮設工事

3章解体施工

4章建設廃棄物の処理

5章

特別管理産業廃棄物等の処理等

6章

アスベスト含有建材の除去及び処理

特別管理産業廃棄物等の調査・行う○行わない

特別管理産業廃棄物等の処分等・行う○行わない

微量PCBを含む機器類

微量PCBの分析調査・行う・行わない

分析調査及び撤去・行う・行わない

・焼却処分・中間処理施設での再生処理

・中和処理・焼却処分・中間処理施設での再生処理

サンプリング調査・行う・行わない

労働安全衛生法第28条第1項の規定に基づく技術上の指針（建築物等の解体等の作業での労働者の石綿ばく露防止に関する技術上の指針）を遵守すること。・アスベスト除去に伴う官公署等への届出申請を行うこと。

分析による調査・行う○行わない

※発注者にて必要箇所の分析調査を行う。

アスベスト含有吹付材の有無・有○無

除去吹付材（）含有場所（）

吹付けアスベストの施工数量調査※行う

アスベスト粉じん濃度測定※行う

表6.4アスベスト粉じん濃度測定

測定時期

測定名称

測定場所

測定点

備考

処理作業前

測定1

処理作業室内

各2点又は3点

（注）1

処理作業中

測定2

施行区画周辺又は、敷地境界

計2点

大気

測定3

処理作業室内

各2点又は3点

（注）1

測定4

セキティゾー入入口

1点

空気の流れを確認

測定5

負圧・除じん装置の排出吹出し口（処理作業室外の場合）

1点

（注）2

測定6

施行区画周辺又は、敷地境界

4方向各1点

－

処理作業後（隔離シート撤去前）

測定7

処理作業室内

各2点又は3点

（注）1

測定8

施行区画周辺又は、敷地境界

4方向各1点

大気

（注）1. 各施工箇所ごとの室面積が50㎡以下までは2点、300㎡以下までは3点とする。300㎡を超えるものは、監督職員と協議する。

（注）2. 集じん・排気装置の性能確認

アスベスト粉じん濃度測定方法

測定3

測定1, 2, 4, 6, 7, 8

測定5

計数機器

位相差顕微鏡

メンブレンフィルタの直径

25mm

47mm

試料の吸引流量

1l/min

5l/min

10l/min

試料の吸引時間

5 min

120 min

210 min

試料の透明化

アセトノートリアセチン法又は、シュウ酸ジエチル法

計数条件

総アスベスト繊維数

200本又は視野数50視野

計数アスベスト

直径3μm未満、長さ5μm以上、長さと直径比3：1以上

定量限界

50 f/l

0.5 f/l

0.3 f/l

作業場の隔離※行う

6.3.1

処分方法

・埋立処分の場合は、特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立処分する

・中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた熔融施設において熔融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う

資料を監督職員に提出し、承諾を得ること。

アスベスト含有仕上塗材の除去（除去工法、養生、粉じん飛散防止措置、呼吸用保護具・保護衣等）については、「建築物の改修、解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針」による。

アスベスト含有仕上塗材の有無・有○無

除去仕上塗材（）含有場所（）

7

特記事項

アスベスト含有箇所・吹付主剤・下地調整材（吹付仕上）・下地調整材（ローラー仕上）

吹付主剤、下地調整材（吹付仕上）の除去及び養生はアスベスト含有吹付け材、下地調整材（ローラー仕上）はアスベスト含有成形板として扱う。

撤去の範囲 ※全面撤去

除去工法

吹付主材、下地調整材（吹付仕上）の除去

・集じん装置付高圧水洗工法・集じん装置付超高圧水洗工法・超音波ケレン工法

・剥離材併用高圧水洗工法・剥離材併用超高圧水洗工法・剥離材併用手工具ケレン工法

・剥離材併用超音波ケレン工法・集塵装置付ディスクグラインダーケレン工法

上記工法によらない場合は監督職員と協議の上、承諾を得ること。

下地調整材（ローラー仕上）の除去工法についてはレベル3（アスベスト含有成形板）の除去工法と同等とする。

除去工法の試験施工※行う・行わない

作業場の隔離及び養生

※「建築物の改修、解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針」による

官公署等への届出

労働安全衛生法に基づく届出・行う・行わない

石綿障害予防規則に基づく届出・行う・行わない

大気汚染防止法に基づく届出・行う・行わない

アスベスト粉じん濃度測定※行う（試験施工時）・行わない

6.1.3

表6.4アスベスト粉じん濃度測定

測定時期

測定名称

測定場所

測定点

備考

試験施工時

測定1

※施行区画周辺又は、敷地境界・図示による

2方向各1点

（注）1. 試験施工時に濃度測定を行い、結果を監督職員へ提出すること。なお、アスベストの飛散が確認された場合は、除去工法及び養生方法を再検討し、監督職員と協議すること。なお、工法の再選定する場合は、協議の上契約変更を行うことができる。

アスベスト粉じん濃度測定方法

測定1

計数機器

メンブレンフィルタの直径

25mm

試料の吸引流量

5l/min

試料の吸引時間

120 min

試料の透明化

アセトノートリアセチン法又は、シュウ酸ジエチル法

計数条件

総アスベスト繊維数

200本又は視野数50視野

計数アスベスト

直径3μm未満、長さ5μm以上、長さ

と直径比3：1以上

定量限界

0.5 f/l

処分方法

・埋立処分の場合は、特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立処分する

・中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた熔融施設において熔融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う

アスベスト含有保温材の有無・有○無

6.4.1

除去保温材（）含有場所（）

作業場の隔離・行う・行わない

処分方法

・埋立処分の場合は、特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立処分する

・中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた熔融施設において熔融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う

アスベスト含有成形板の有無・有○無

6.5.1

除去成形板（）含有場所（）

作業場の隔離・行う・行わない

処分方法

・埋立処分

・アスベストの中間処理に適する熔融施設

・認定を受けた無害化処理施設

※本工事に配置管理させる者（有資格者）

※特定化学物質等作業主任者（H18.3.31以前の講習修了者）又は石綿作業主任者（H18.4.1以降の講習修了者）

特記事項

変更事項

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

日付

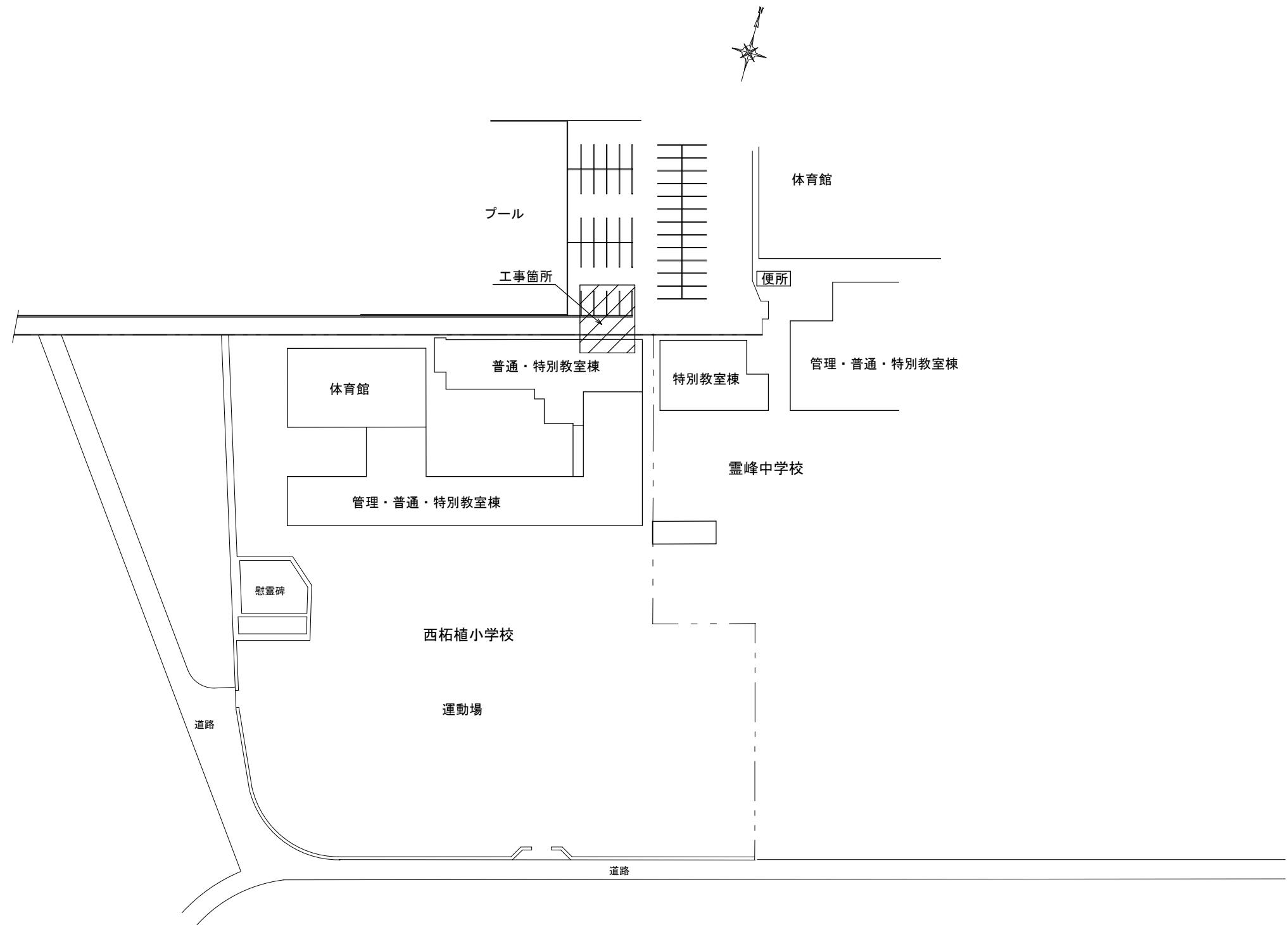
日付

日付

日付

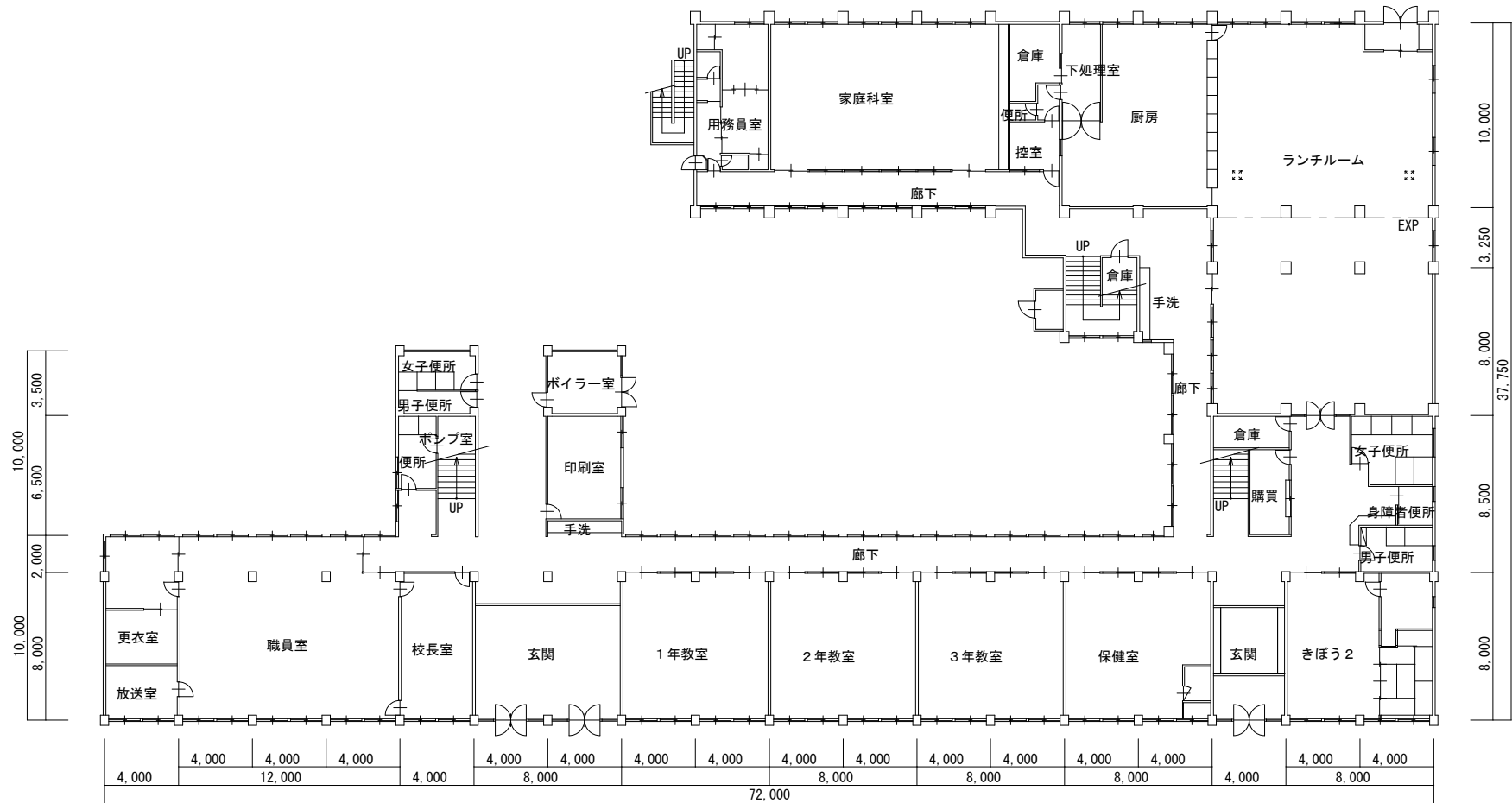
日付

<

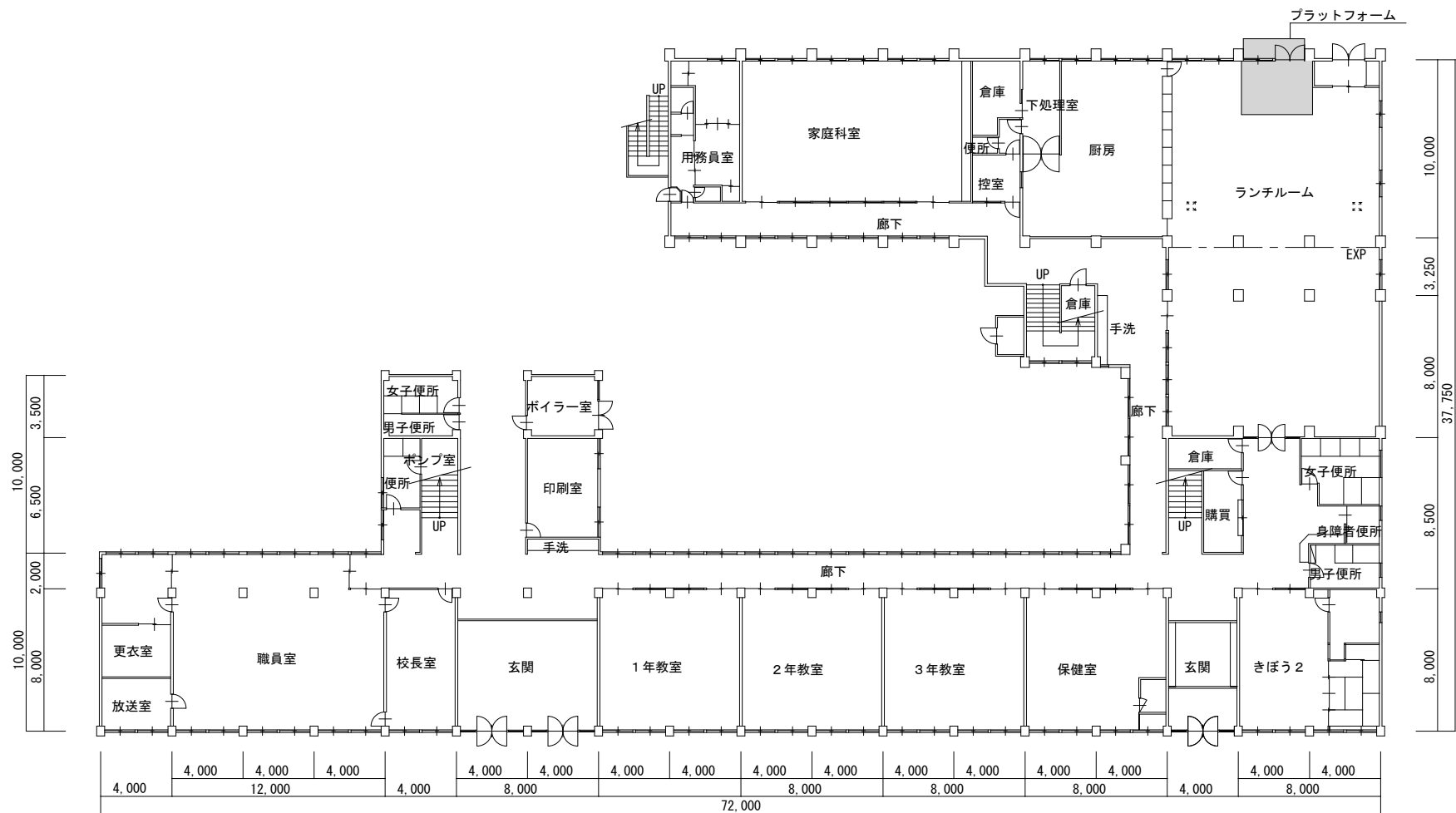


全体配置図 S = 1 / 7 0 0

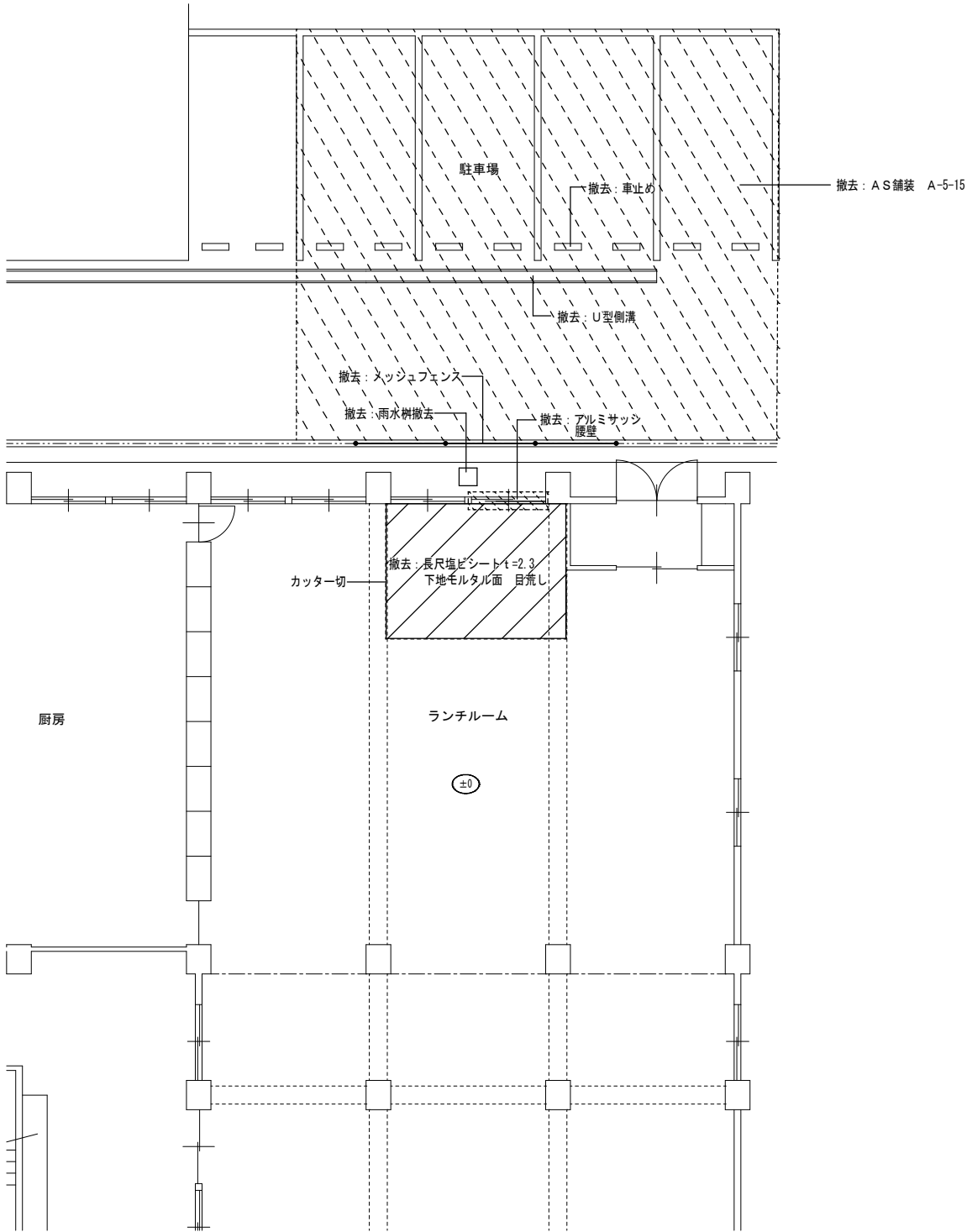
特記事項	変更事項			日付	' 1 9 . 1 1 . 1 1	名称	西柘植・壬生野小学校 新給食センター配送校給食室等改修工事（令和元年冬工事）		図面番号	A - 0 7
		棟図								
					図名	西柘植小学校	縮尺	A3版 縮小	棟印	
					担当	全体配置図		A2版1/700		
				日付						



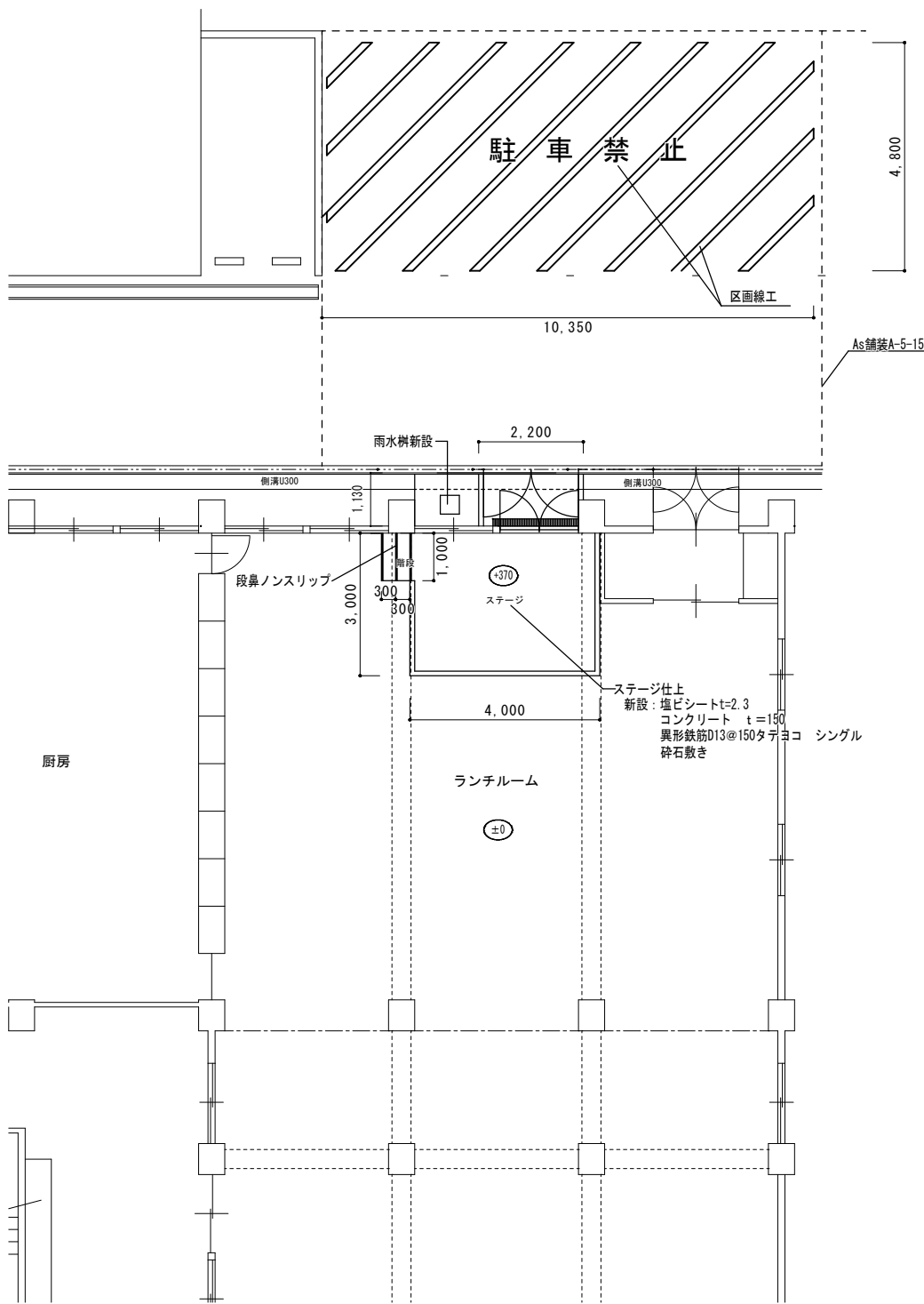
改修前 1階平面図 S = 1 / 2 5 0



改修後 1階平面図 S = 1 / 2 5 0

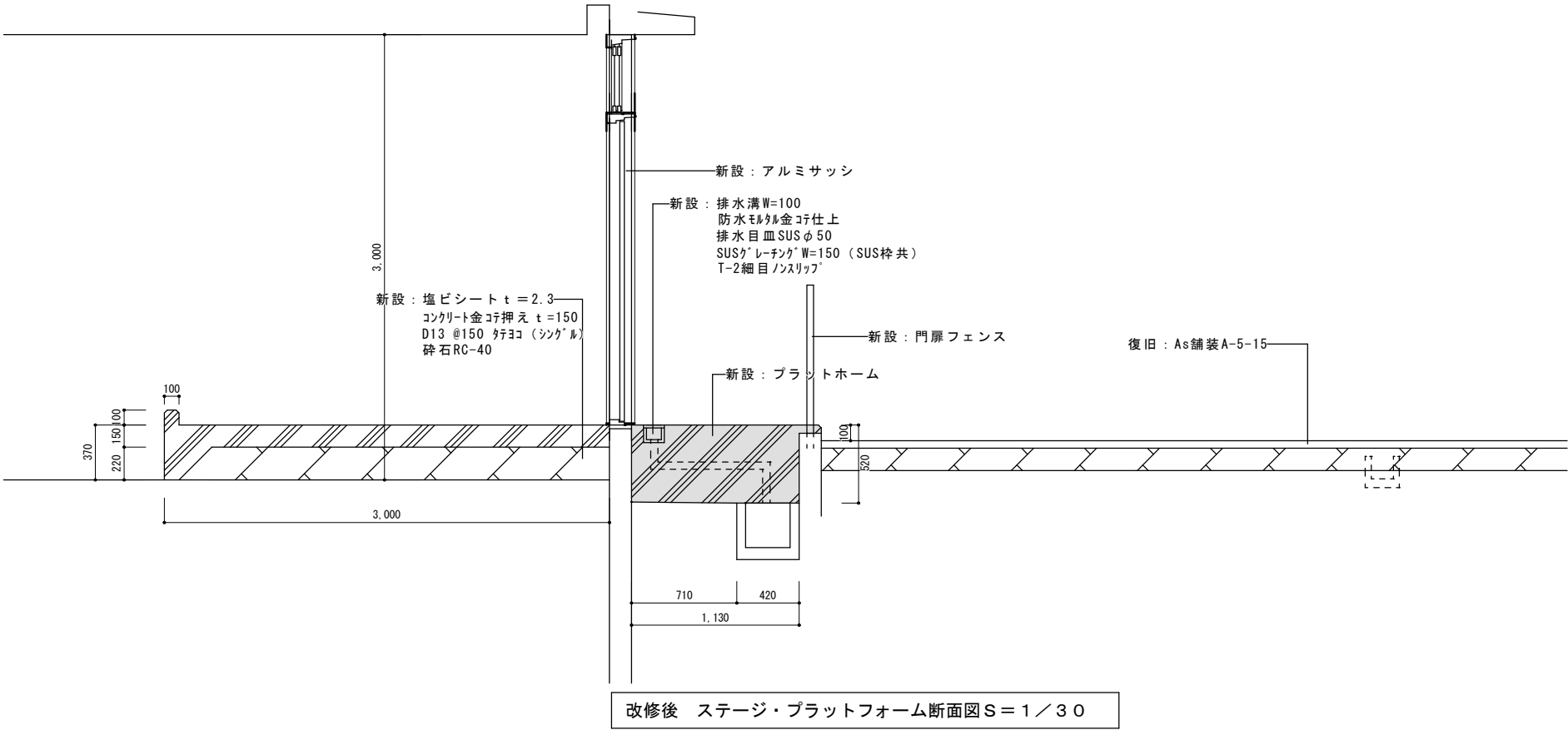
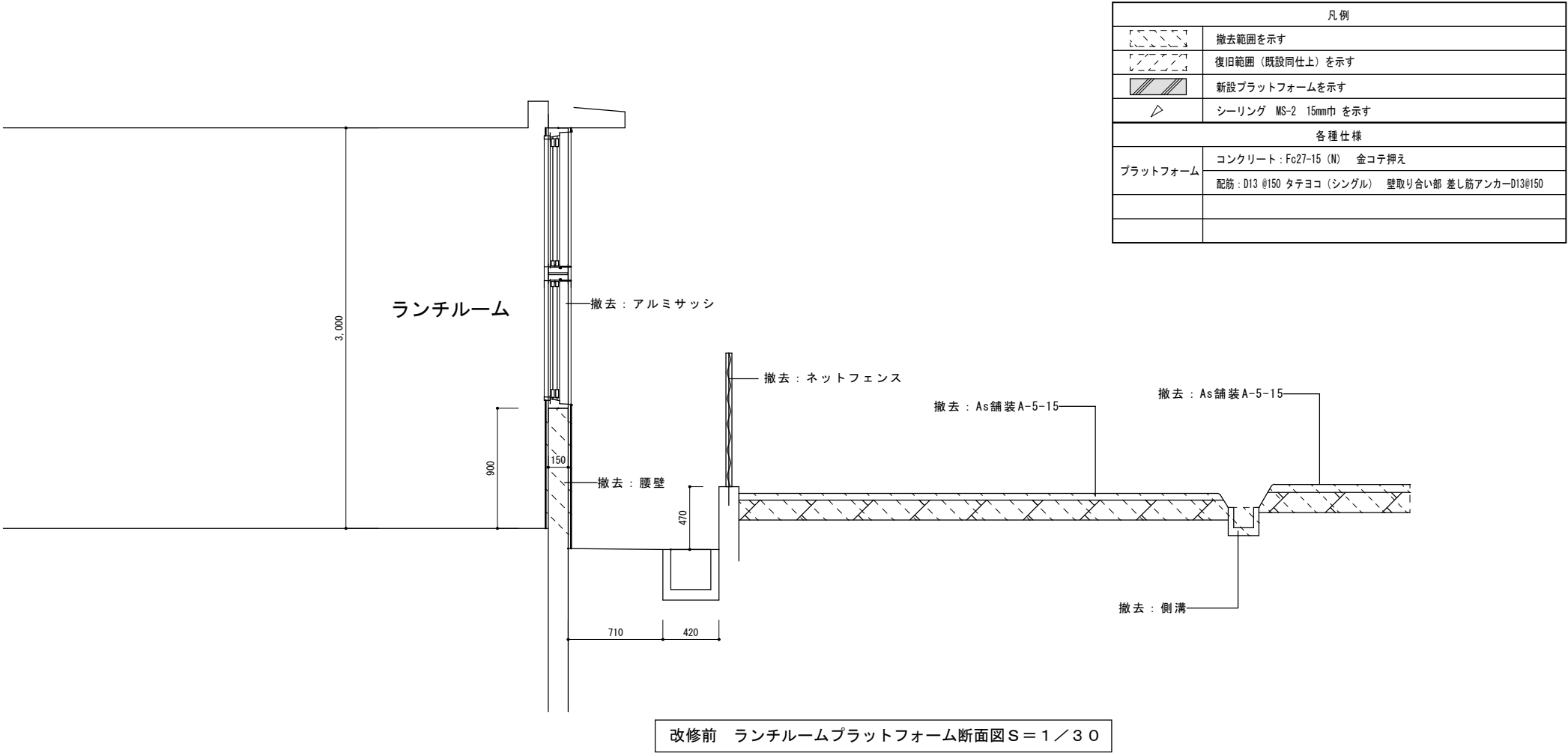


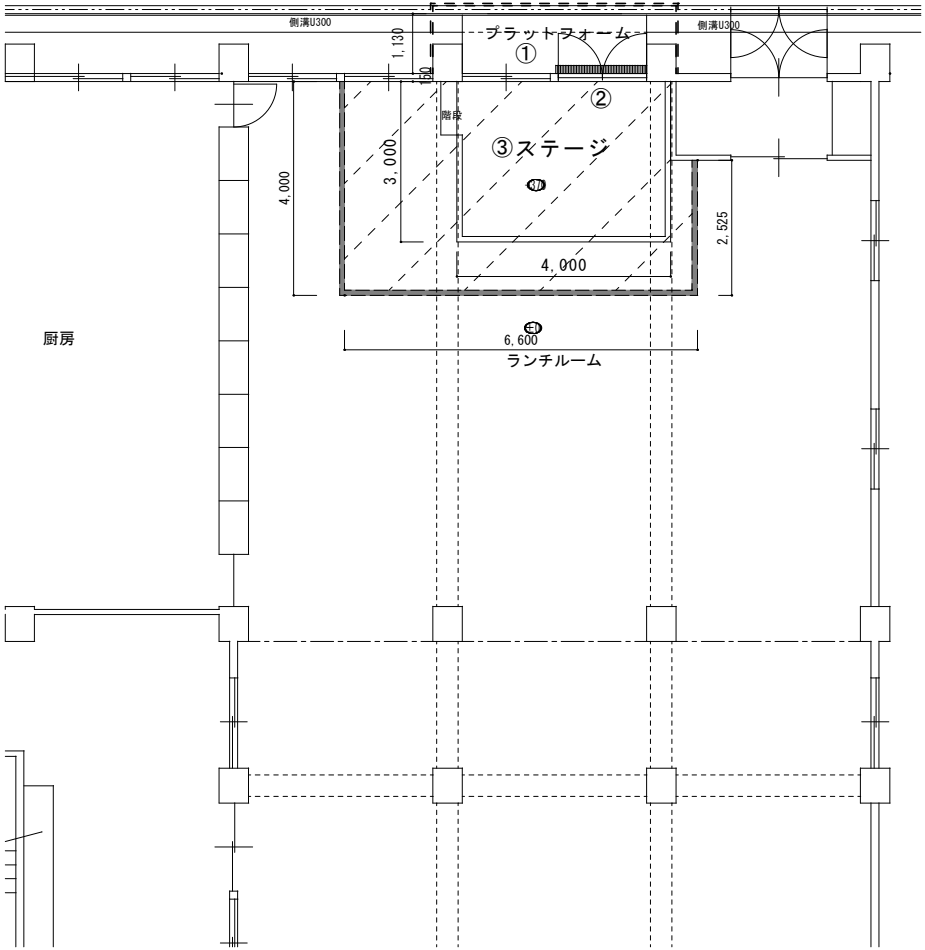
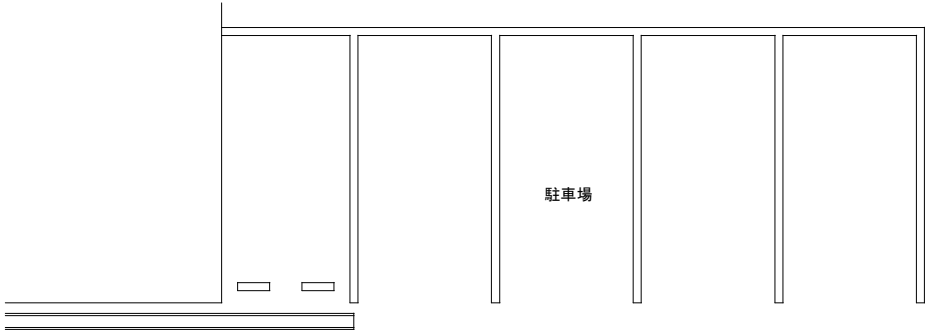
改修前
ランチルーム 平面図 S=1:100



改修後
ランチルーム 平面図 S=1:100

記号	数量	場所	10 AW	1	ランチルーム
姿 図 (内観図) 見 込	1,645 2,100 1,000 100 1,000 900 1FL 内壁仕上: 珪塗 モルタル下地 t=20 巾木: モルタル金コテ珪塗 外壁 (RC) t=150 外壁仕上: 吹付タイル モルタル下地 t=20 巾木: モルタル金コテ 撤去 → 50 1,545 50 (有効開口 1,425) 100 60 440 2,000 1FL				
	型 式	2 段 4 連引違い窓		ランマ付き両開き樞戸 (カバー工法)	
	材 質	アルミ押出形材		アルミ押出形材	
	ガラス	透明ガラス t=3		欄間・扉上部: 学校用強化ガラス (透明) t=4 扉下部・袖窓下部: アルミパネル t=3	
	金 物	取付金物一式		内外大型SUS引手H=450・アルミ鎖縁 (内部)・SUS丁番・SUS番錠・ドアクローザー (2ヶ所) シリンダー錠・自動フラッシュボルト・扉下部モヘア・SUS網戸 (欄間)・取付金物一式	
備 考	建具廻りシーリング		建具廻りシーリング		



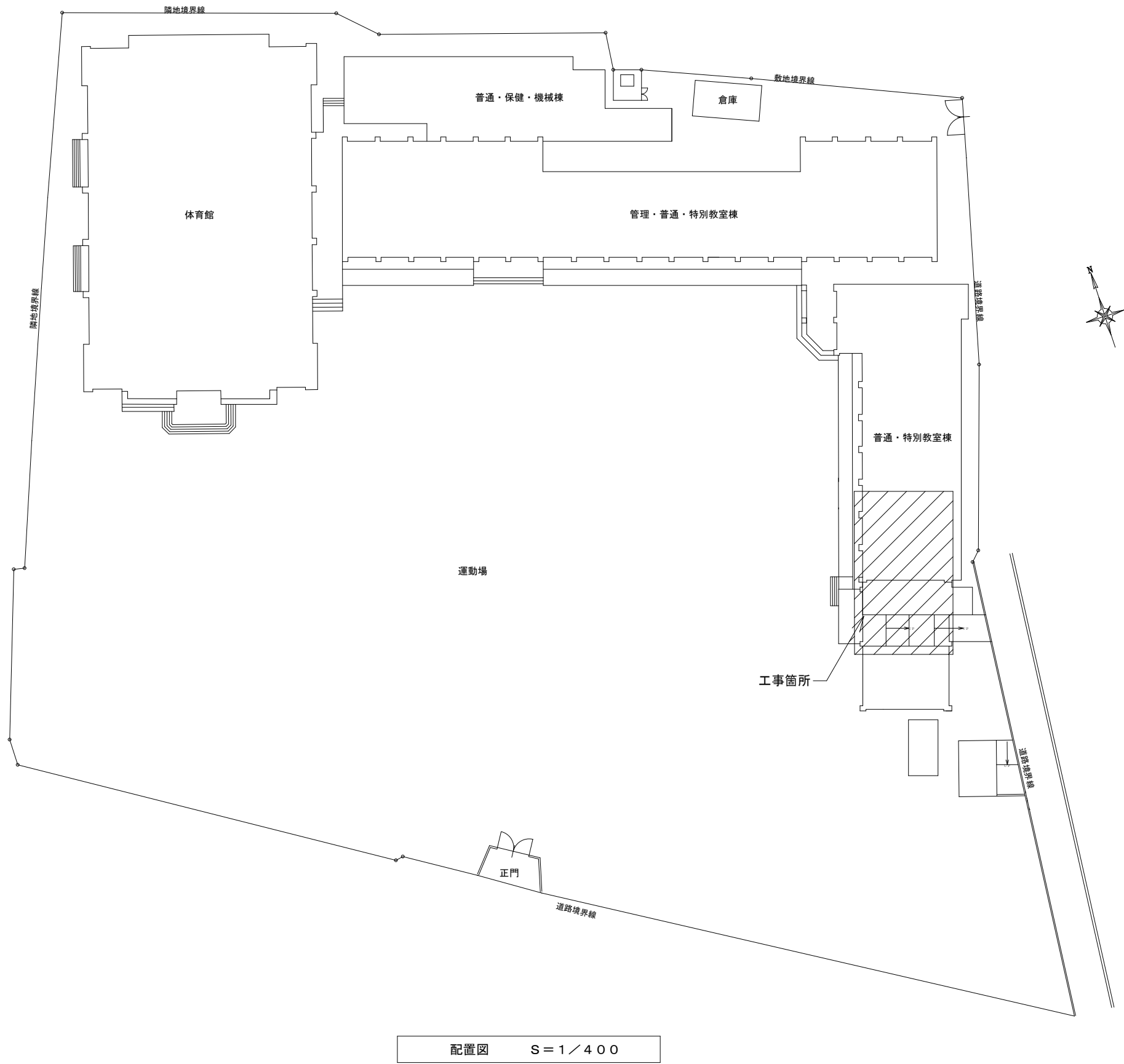


仮設計画図 S = 1 / 1 0 0

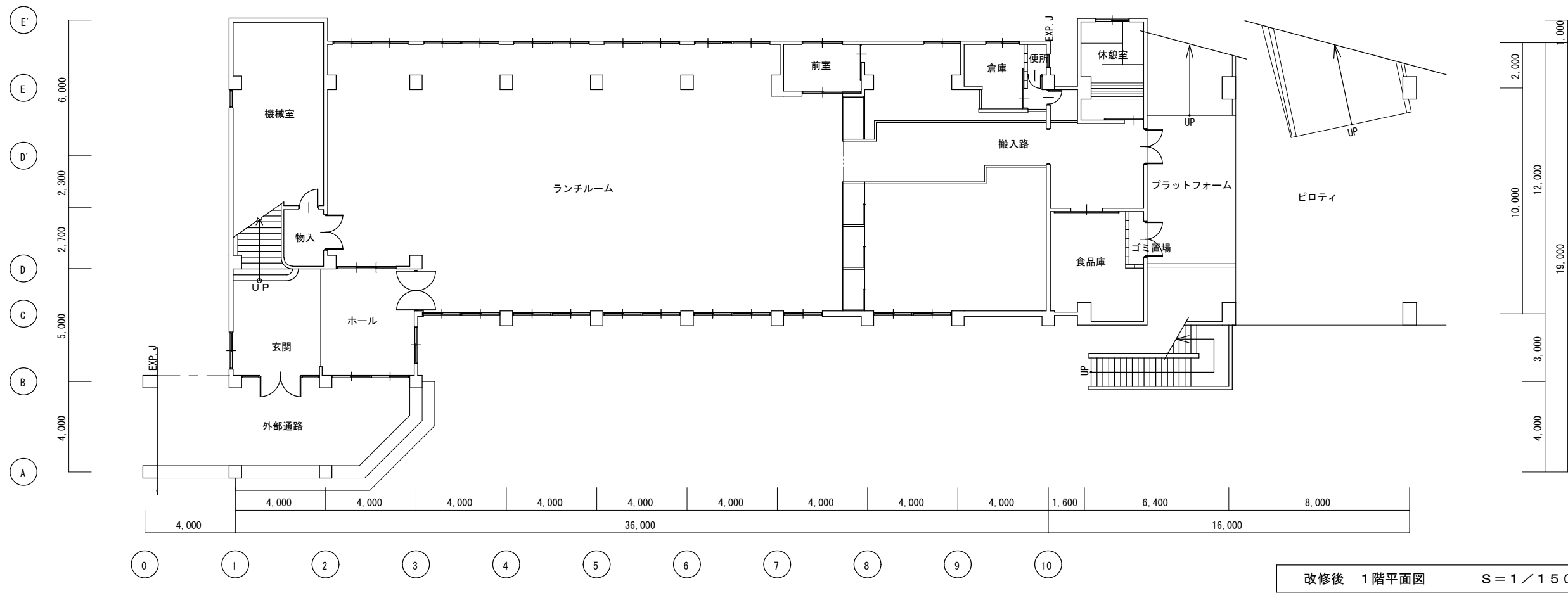
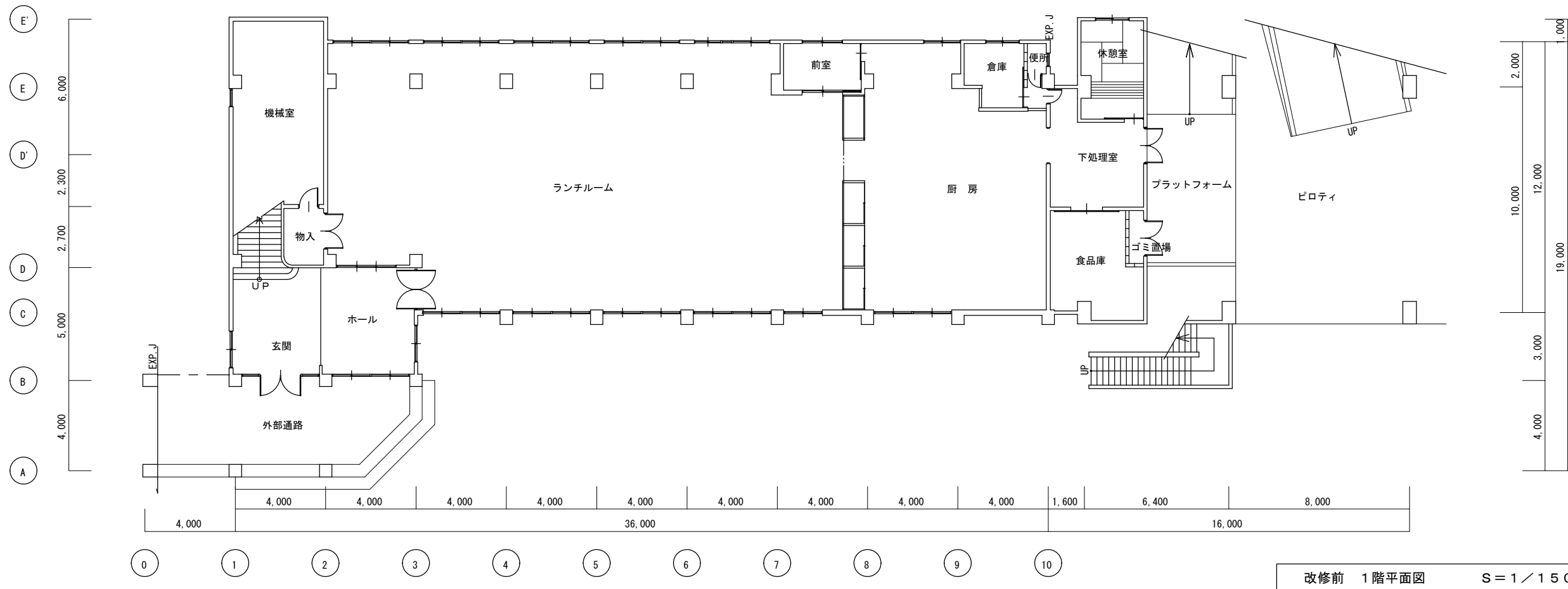
	工事内容 凡例
①	プラットフォーム床新設
②	搬入口建具撤去・新設
③	ステージ新設
④	
⑤	
⑥	
⑦	

凡 例	
	屋内施工範囲を示す
	仮囲い シート張り H=2.0mを示す 7.2m
	単管バリケードを示す 13.1m
	仮設間仕切 PB12.5（片面） LGS65下地 を表す

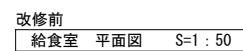
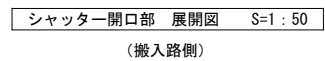
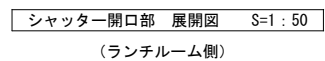
※敷地内の工事車輛の通行範囲については、工事完了後に不陸整正程度の現況復旧の措置を行うこと。
上記の内容で現況復旧が不可能と想定される場合は、鉄板敷き等グラウンドの養生方法を監督員と協議し決定する。



特記事項 ・ ・ ・ ・	変更事項	・		日付 ・ 19. 11. 11	名称 西柘植・壬生野小学校 新給食センター配送校給食室等改修工事（令和元年冬工事）	図面番号 A - 1 2
		・				
		・				
		・				
	日付	・		検図	図名 配置図	縮尺 A3版 縮小 A2版1/400



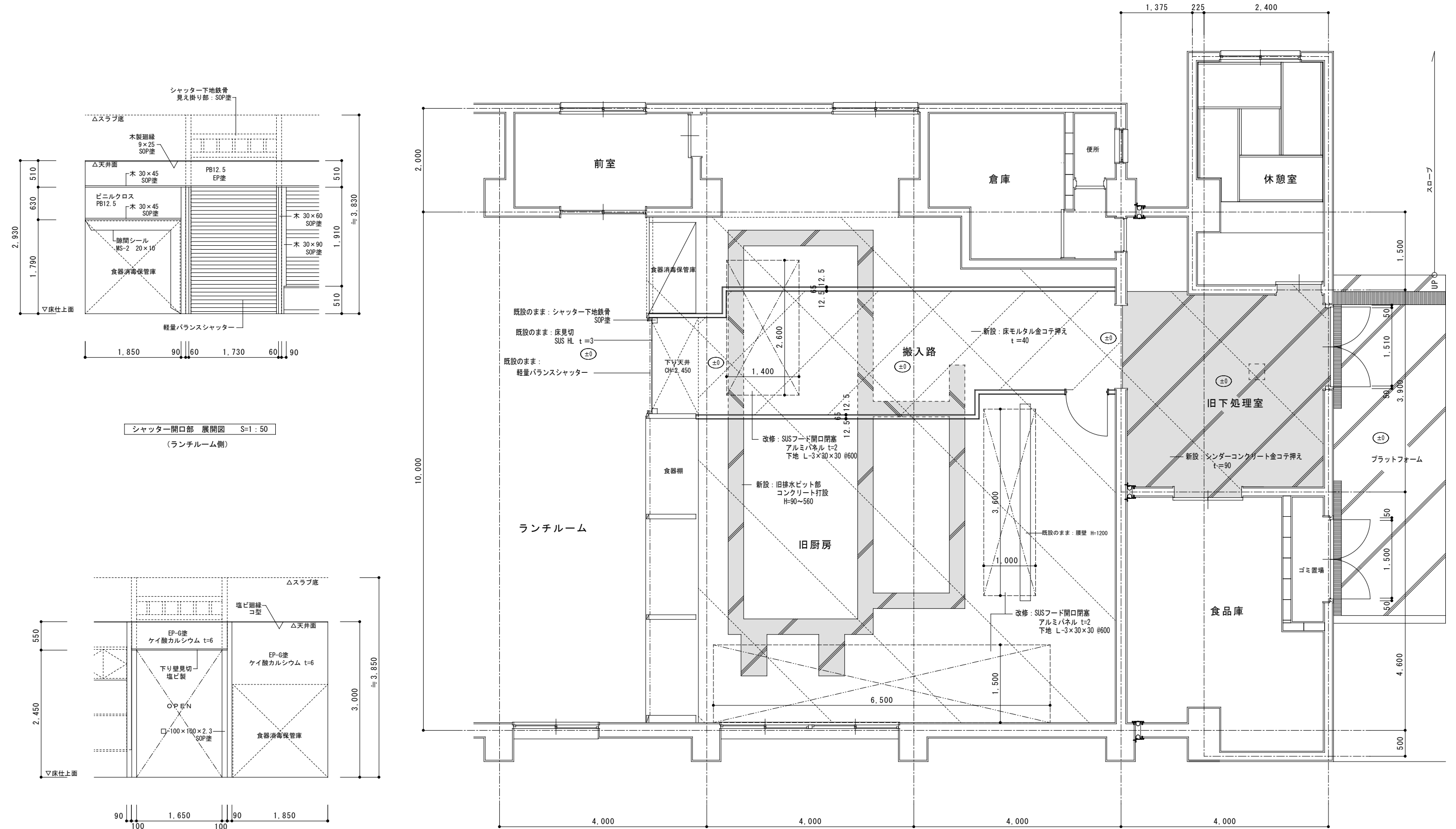
特記事項	変更事項	-		日付	' 19. 11. 11	名称	西柘植・壬生野小学校 新給食センター配送校給食室等改修工事（令和元年冬工事）			図面番号	A - 1 3
		-									
		-									
		-									
	日付	-					図名		縮尺	A3版 縮小 A2版1/150	校印
							改修前・改修後平面図				



① ±0 : 給食室FLからの高さを示す。

下処理室 改修部 改修前仕上表		CH = 3, 050
床	モルタル金コテ押え t=30 排水ビット内部：防水モルタル金コテ押え	

日付	19.11.11	名称	西柘植・王生野小学校 新給食センター配送校給食室等改修工事（令和元年冬工事）		図面番号	A-14
検図		図名	縮尺	A3版 縮小 A2版 1/50	検印	
担当		給食室/搬入路 改修計画図（改修前）				



改修後
配膳室 平面図 S=1 : 50

床モルタル施工厚さが40mmを超える箇所が発生した場合は
監督員と協議の上、ひび割れ防止措置を講じること。

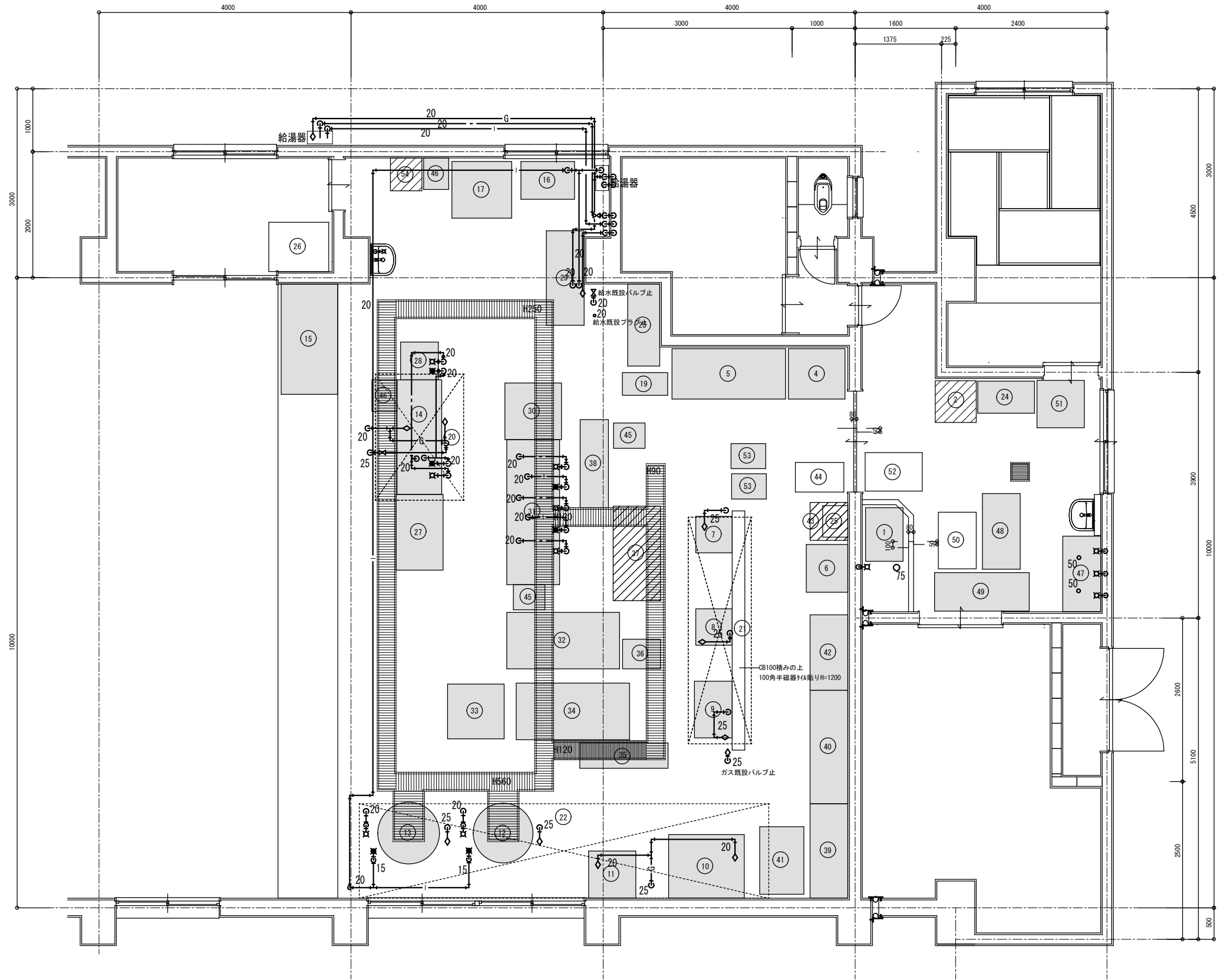
凡 例	
	屋内改修範囲を示す
	コンクリート金コテ押え範囲を示す
	コンクリート木コテ押え範囲を示す
	床 モルタル金コテ押え 新設範囲を示す

⊙0 : 搬入路FLからの高さを示す。
搬入路FLは既設給食室床面上高さを基準として設定し、
監督員の現地立ち合いのもと承認を得ること。

旧厨房	改修部	改修後仕上表	CH = 3,000
床	排水ビット部	コンクリート金コテ押え	

旧下処理室	改修部	改修後仕上表	CH = 3,000
床	シンダーコンクリート金コテ押え t=90 ワイヤーメッシュ φ6×150×150 排水ビット内部：コンクリート充填		
間仕切壁	PB12.5 EP-G (両面) LGS65 #300 下地 既設天井・壁取合い部：塩ビ見切 (コ型) ビニル巾木		H = 75

搬入路	改修部	改修後仕上表	CH = 3,000
床	モルタル金コテ押え t=40 排水ビット部：コンクリート木コテ押え		
間仕切壁	PB12.5 EP-G LGS65 #300 下地 既設天井・壁取合い部：塩ビ見切 (コ型) ビニル巾木		H = 75



厨房機器撤去リスト

※記載なき備品等の撤去は別途とする。

N0	品 名	数	サイズ			特記事項
			W	D	H	
1	包丁まな板殺菌庫	1	850	600	1450	撤去
2	冷蔵庫	1	650	660	1900	旧新田小学校に移動
3	ヒーター					該当なし
4	冷蔵庫	1	900	800	1900	撤去
5	冷凍冷蔵庫	1	1800	800	1900	撤去
6	冷蔵庫	1	760	660	1960	撤去
7	立体炊飯器	1	580	580	1300	撤去
8	立体炊飯器	1	580	580	1100	撤去
9	ガステーブル	1	900	600	890	撤去
10	スチームコンベクション	1	1200	1010	1570	撤去
11	フライヤー	1	750	750	920	撤去
12	回転釜	1	φ950	-	900	撤去
13	回転釜	1	φ980	-	890	撤去
14	洗浄機	1	1820	710	1330	撤去
15	食器消毒保管庫	1	1750	900	1830	撤去
16	包丁まな板殺菌庫	1	850	600	1490	撤去
17	食器消毒保管庫	1	950	900	2000	撤去
18	冷蔵庫					該当なし
19	フードスライサー	1	360	720	1050	撤去
20	フード	1	2000	1400	1070	撤去なし
21	フード	1	3600	1000	1050	撤去なし
22	フード	1	6500	1500	1050	撤去なし
23	消毒保管器	1	1300	510	1900	撤去
24	消毒保管器	1	900	510	1900	撤去
25	電子レンジ	1	500	400	330	旧新田小学校に移動
26	牛乳保冷库	1	780	950	1920	存置
27	一槽シンク	1	1200	750	800	撤去
28	一槽シンク	1	600	600	660	撤去
29	四段ラック	1	1500	600	1800	撤去
30	作業台（キャスター付）	1	900	900	770	撤去
31	三槽シンク	1	2300	840	800	撤去
32	作業台（キャスター付）	1	1790	900	800	撤去
33	一槽シンク	1	900	870	900	撤去
34	作業台（キャスター付）	1	1800	900	780	撤去
35	作業台（キャスター付）	1	1400	400	580	撤去
36	作業台	1	600	470	590	撤去
37	作業台	1	1500	750	800	旧新田小学校に移動
38	作業台（キャスター付）	1	1400	450	500	撤去
39	戸棚	1	1500	600	1800	撤去
40	戸棚	1	1800	600	1800	撤去
41	ワゴン	2	1070	700	940	撤去
42	作業台	1	1200	600	650	撤去
43	台（キャスター付レンジ下）	1	600	600	480	旧新田小学校に移動
44	ワゴン（キャスター付）	2	770	470	960	存置
45	パイプキャスター	2	500	400	460	撤去
46	パイプキャスター	2	500	400	600	撤去
47	二槽シンク	1	1200	600	900	撤去
48	作業台	1	1200	600	810	撤去
49	作業台	1	1500	610	950	撤去
50	作業台（キャスター付）	1	900	600	800	存置
51	一槽シンク（キャスター付）	1	750	750	620	撤去
52	スチールワゴン	1	910	610	1000	存置
53	パイプキャスター	2	550	400	600	撤去
54	作業台	1	500	520	610	旧新田小学校に移動

設備配管撤去リスト

給水管	20A 土中 キャップ止	9.0 箇所	カラン類	給湯	1.0 式
給水管	20A キャップ止	6.0 箇所	はつり補修費	給湯 壁 貫通部	1.0 式
給水管	20A	25.0 m	ガス管	50A キャップ止 外部 配管サポート	1.0 箇所
カラン類	給水	1.0 式	ガス管	20A	33.0 m
はつり補修費	給水 壁 貫通部	1.0 式	コック・バルブ		1.0 式
保温材	給水	1.0 式	ガス管切断	FL面 コンクリート補修共	1.0 式
給湯管	銅管 20A	46.0 m	はつり補修費	ガス 壁 貫通部	1.0 式
給湯管切断	FL面 コンクリート補修共	1.0 式	排水管切断	FL面 コンクリート補修共	1.0 式
保温材	給湯	1.0 式	配管支持金物		1.0 式

- 給水管

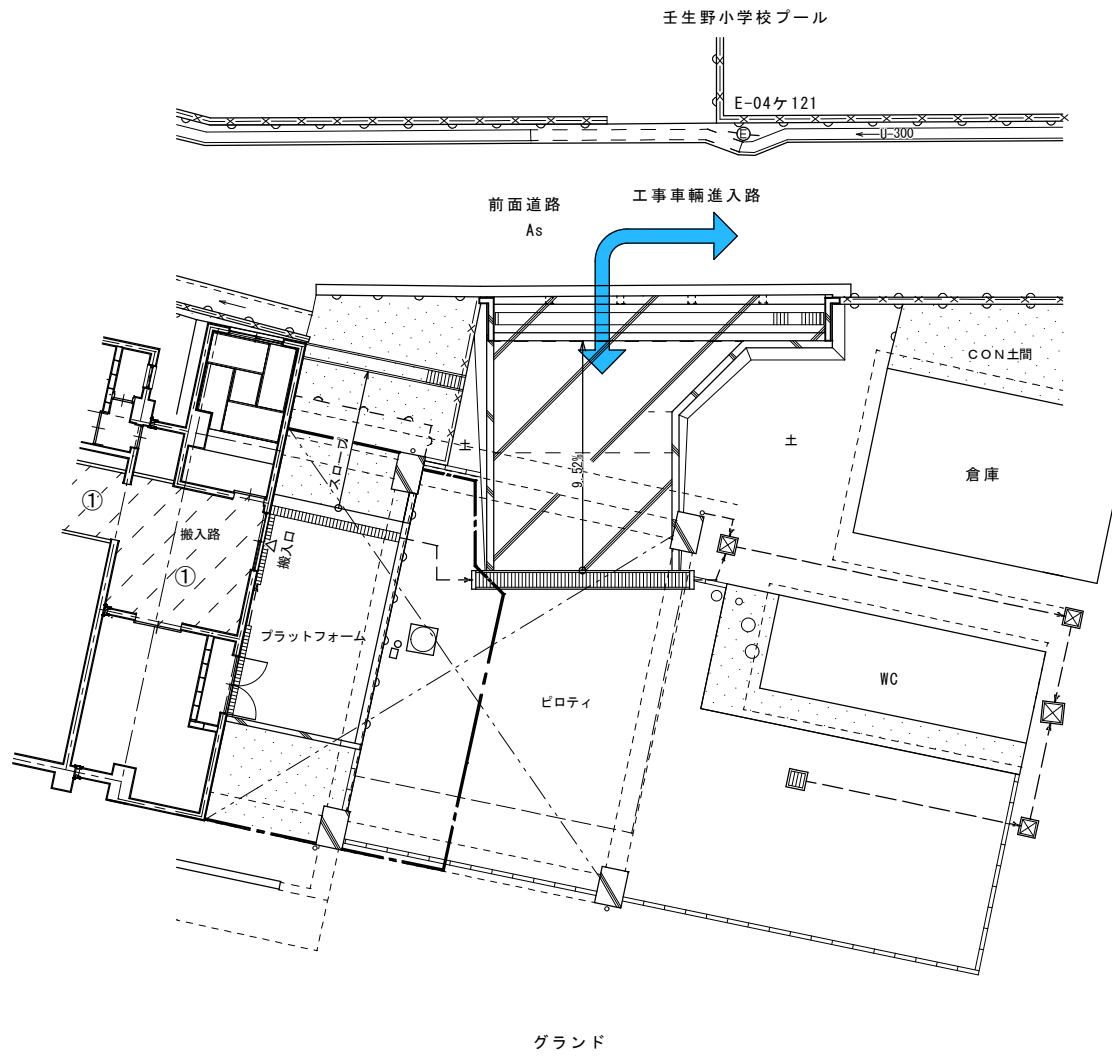
給湯配管

ガス配管

排水配管立上り

- 撤去機器を示す。

移動機器を示す。



	工事内容 凡例
①	屋内搬入路新設
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	

凡 例	
	屋内施工範囲を示す
	単管バリケードを示す 22.3m

仮設計画図（令和1年冬工事） S = 1 / 1 5 0